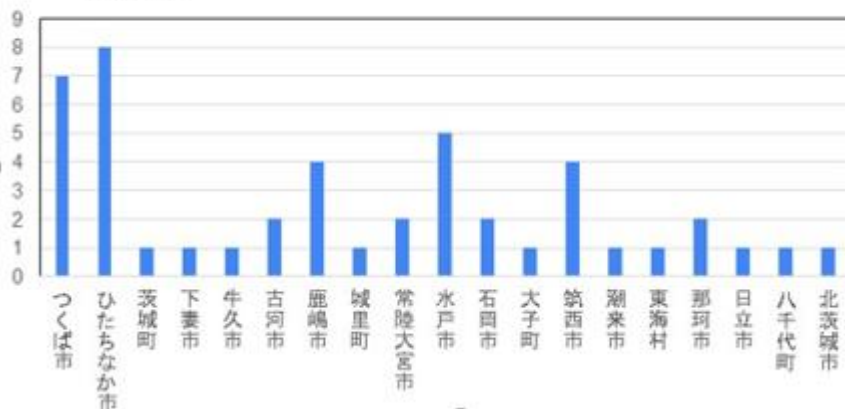


子育てしやすい茨城をつくるための
アンケートご協力
ありがとうございました。



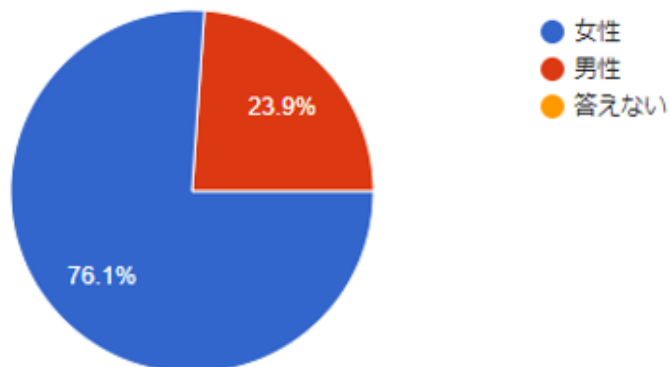
子育てしやすい茨城をつくるための アンケート結果

お住いの市町村
46件の回答



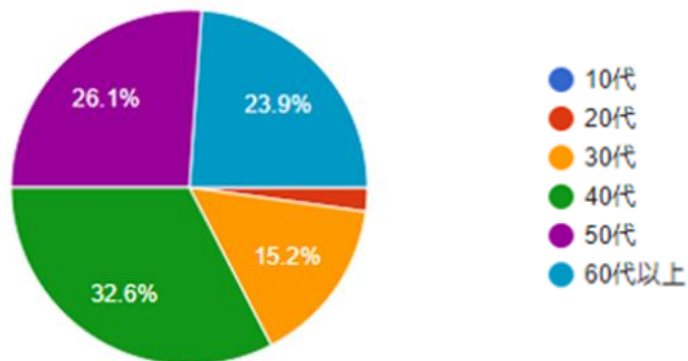
性別

46 件の回答



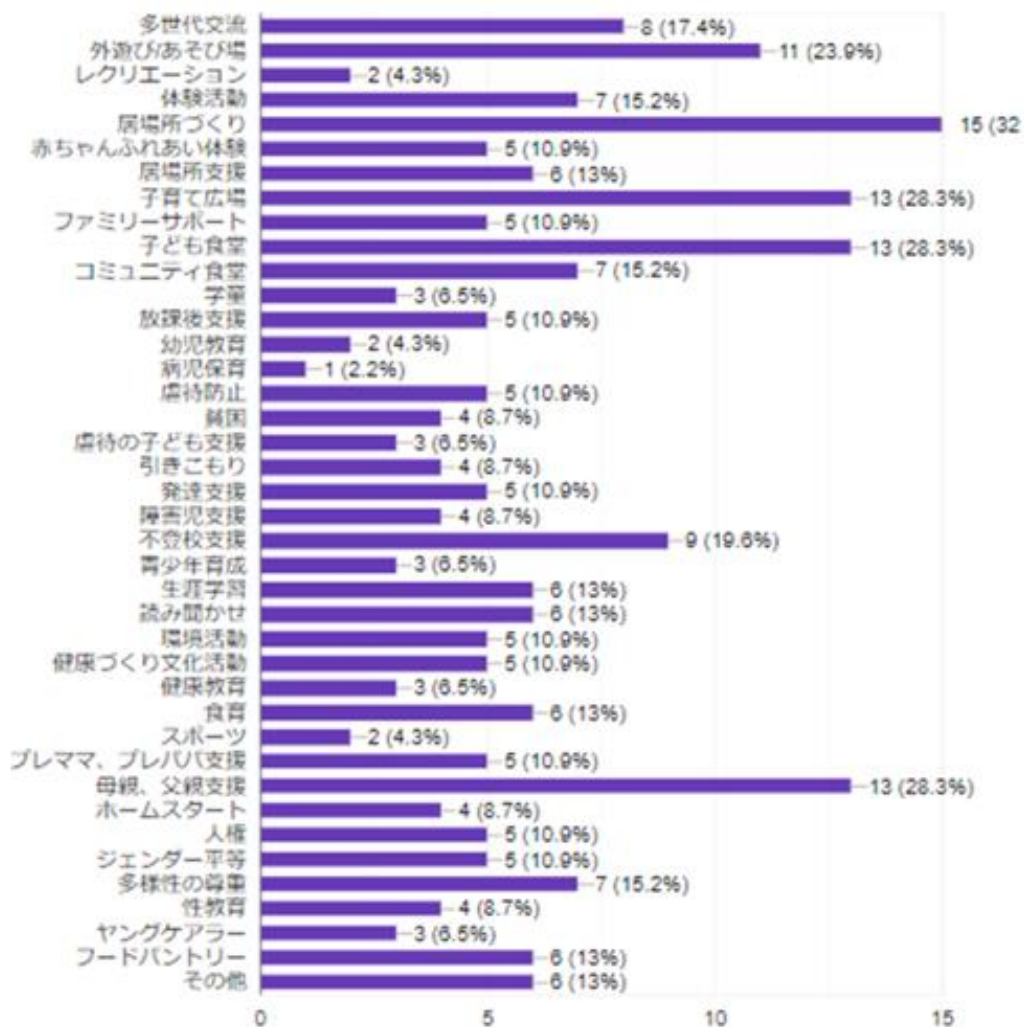
年齢

46 件の回答



どのような活動に関わっていますか（複数回答可）

46 件の回答



●活動をされている上での課題や、学びたいこと、知りたいことはありますか。

- ・ボランティア活動として行っていますが、会場確保や開催アナウンスなどの方法について、伺いたいです。また、コロナ禍での開催基準をどのように定められていたのかも知りたいです。
- ・こども食堂なので、マンネリ化した、メニューの解消。
- ・アレルギーに関する新しい知見や情報。
- ・施設の認知度向上。
- ・0～5歳児、学童のおもちゃの与え方（発達に合わせたおもちゃとは？）について。
- ・チームづくりのコツ。
- ・行政や学校との連携と不登校の親と子どもの声をいかに上手く伝えられるか？が課題です。
- ・認知度が低い。
- ・生活保護や、生活苦の子供たちへの接点を持てず、役所、他の機関に働きかけるなど、ずっと試行錯誤している間に、この度、子ども食堂が地域サロンに区分けされ、立ち上げの時のねらいから外れるばかりで、残念な気持ちがありますが、来てくれている中に一人でもそのような子が居ることを願うばかりです。
- ・人材の確保、運営資金の確保、子育て支援の形、地域のネットワークづくり。
- ・支援者や利用者を増やすための情報発信や研修。
- ・乳幼児の保護者への各自治体としての取り組み。
- ・個人的にですが、会のまとめかた、進行の仕方などが課題。子ども達の遊ばせ方など、学びたいと思っています。
- ・固定観念にかなりバラつきがある集団への伝え方。
- ・食堂活動継続経費のために、どう寄付を集められるかという課題です。また、一人暮らしの年寄の方々に食堂の活動をどう知らせるかという課題です。
- ・コロナ禍での活動の工夫。
- ・ボランティアを増やしたい。
- ・活動するグループごとに会員が固定化し、新しい会員は増えないので高齢化が問題。他に新しいグループができているようだが、うまくネットワークできていない。うまくつながり、地域の活動に広がりができるような学びがしたい。
- ・スタッフ不足。活動場所の確保。
- ・行政との関わり、行政と学校の連携。
- ・登録済みだが、まだ依頼なく、未経験。
- ・自分の知らない現実を知り、活動に役立てていきたい。
- ・コロナ禍では、学校に出入りにくく、閉鎖的な雰囲気となっている。校長先生が読み聞かせをするかの判断をする為、なかなか読み聞かせの活動ができない。

- ・市の施設での活動なので、時間の制限が有り、時間外の活動が協力できない。
- ・子ども、その他対象の方に対する直接支援、またそうした動きを組織的に行う際の運営に関わる知識等。
- ・集団での活動にどれだけ頑張って参加させるかのさじ加減。
- ・先進自治体の活動内容。
- ・活動の広報・周知と活動領域の拡大に課題を感じています。また、学校での性教育の現状について知りたいです。
- ・コロナ禍で一緒に食事が出来ない事で、出来ない活動がある。
- ・ネットワークのあり方。
- ・他団体の活動の様子が知りたい。
- ・子育てから離れて大分たつので、今の子供たちの実態が全くわかりません。
- ・子供の貧困と言っても都会と違い、茨城の場合は祖父母が近くにいたり、野菜がもらえたりで、都会ほど切実ではなさそう。茨城、水戸市の実態が知りたいです。"
- ・子供食堂主宰者等、情報交換交流の場を望みます。
- ・課題と感ずることは、ボランティアが 60 代以上が多く、子育て世代は仕事をしているか育児でボランティアが集まらない。
- ・現在のボランティアが引退した後、活動が続かないのではないかと感じている。
- ・スタッフ募集、活動資金、書類作成。
- ・学童は町が設置しているのにもかかわらず、仕事しているから預けているのに父母会が運営って？会計、買い物など。
- ・人に、自分がされて嫌なことはしない。
- ・わがままを聞くことと教育へのバランス。
- ・目的のある活動は生き甲斐にもつながる。
- ・他の団体との交流など情報。
- ・広報力の不足が一番の課題。二番目は予算の不足。三番目は決められた場所が無い事。
- ・コロナ禍の中 もっと活動を活発化、広げたいと思っていますが、何をすれば良いか、ヒントが見つかりません。
- ・子どもへどうやって情報を伝えるか。
- ・広告。どうしたら多くの必要としている方にアプローチできるか？ 興味のない人をどう振り向かせ活動に関心、参加をしてくれる人を増やせるか？
- ・事業運営、事業評価。
- ・不登校支援について、これまで居場所の選択肢の一つになれば、とは思ってやってきてはいましたが、それに特化しているわけでもないので、需要に届いていないことが課題です。
- ・HSC や発達特性を持つ子ども、コミュニケーションに不安を感じている子との接し方について学びたいと思っています。

●身の周りのことで、近頃気になっている事がありますか。

- ・職場復帰を念頭に育児に携わる方たちが増えましたが、反面、子供との密接な時間から離れがたく離職を選んだという話を聞きました。もともとの自分と職場との環境に課題があったと思いますが、復職できなかったことで悩む方もあることを知りました。職場復帰が当たり前のように言われることも、かえって問題を含むことになるのでは、と思いますが。
- ・アレルギーのある子の給食状況。
- ・コロナ感染。
- ・「私は」の伝え方で物事を捉える方が少ないことに危機感を覚えます。コロナ、虐待や育児放棄、自殺など、自己肯定感や自己効力感、自己決定が乏しいことも原因の1つだと考えています。
- ・不登校の子が学校とのやりとりで、外に出れなくなってしまう事に対し、そのストレスを学校に伝える手伝いを居場所としてやりたいのですが、お母さんから受け入れて貰えず、どうしてあげたら良いのか悩み中です。先ずは、お母さん達にアンケート実施、次に個人面談を行いその結果を行政に持ち込み、お話しさせてもらうつもりではいます。
- ・お弁当配布がずっと続き、来る人は百人を超え、手に余るほどになりましたが、接触する時間が短いので、コミュニケーションが薄くなりました。
- ・色々な困りごとに対して、人同士でお互い様の助け合いではなく、サービスを利用することを第一の選択と考える傾向になっていること。
- ・不登校ぎみの子の居場所、外国籍の子どもの支援。
- ・乳幼児を育てている母親の孤立感。
- ・校則。
- ・コロナの影響かもしれませんが、子供達小学校休憩時間の外遊びが減り、近視になった子供達がかなり増えてきた気がします。
- ・コロナ禍で、里帰り出来ず孤立しながら育児をしているママが多い事。
- ・貧困の問題。できることは寄付をすることなどに限られる。どのようなアプローチができるか、もちろん無理はできないが。
- ・コロナ生活が子ども達の発達にどんな影響を与えているか。
- ・子どもの依存症(お金、ゲーム等)について。
- ・外遊びではマスクを取っていいと言われているし、その方が安全だと思うが、学校では登下校や体育の時間のマスクをしなくていいと言う話は出ていない。子どもの為を思っていない行動が多い事。
- ・学童保育のもれた子供の支援。
- ・地域ごとによっては、目の前の課題を認識していない、若しくは動こうとする人が少ない。その格差が明らかに地域生活を更に困難にしている。しかし、そのことすら気づいていない人が多い。
- ・父親支援、子どもの発達支援。
- ・ウクライナのこと、環境破壊の問題、資本主義の限界、人間らしさ。
- ・コロナ禍以降、食べ物を扱ったイベントを行うかどうか。

- ・フードパントリー開催情報。
- ・ひとり親世帯の方と関わるが多く、子どもの孤立やヤングケアラーの問題に関心があります。
- ・鬱、ネット環境（ICT）が脳に与える影響。
- ・学童の資格を持つ先生がいない。
- ・子どもとその親との遺伝子と生活環境の相関。
- ・子ども達は巣立ったが、地元から離れた。
- ・ボランティアの高齢化。安定的な運営資金の確保。
- ・どこまでボランティアできるか。
- ・日常的なマスク生活の長期化で、人に表情を見せることを恐れる子どもが増えていること。
- ・不登校の増加。

●その他、質問や伝えたいことなどありましたら、ご自由にお書きください。

- ・コロナ禍において、大勢の親子で行う体験学習のヒントがあれば教えていただきたい。
- ・行政との付き合い方を学ばせていただきたいです。
- ・子ども食堂が地域サロンの方に入れられた事を、皆さんはどう思ってるのでしょうか？
- ・一人親の家庭でも、実家暮らしの場合、普通家庭より余裕を持っているかもしれません。普通の家庭でも、子供が自ら通いたい塾や習い事に行かせるため、車と家さえ持たずに生活を詰めて頑張らないといけないケースもあります。子育て支援は「子供」を支援することと、「親」を支援すること、二つのポイントに分けて考えても良いと思います。
- ・子ども達の育成は単年度の関わりで良くなるものではない。親たちにもっと地元の組織に関わって欲しい。